

国立能楽堂

十月

October 2015
National Noh Theatre
平成27年度(第70回)文化庁芸術祭協賛

平成27年

【企画公演】10月31日(土)午後1時開演

◎平成27年度(第70回)文化庁芸術祭主催

古典の日記念(鏡に映るものは)

一調野守 藤波重孝
観世元伯

舞囃子 井筒 大坪喜美雄(宝生流)

狂言 抜殻 茂山千三郎(大藏流)

能 松山鏡 武田志房(観世流)
大槻文藏
福王茂十郎

【定例公演】10月7日(水)午後1時開演

狂言 素袍落 大藏吉次郎(大藏流)

能 清経 岡久広(観世流)
替之型

【普及公演】10月10日(土)午後1時開演

解説・能楽あんない
闇に消えた儂い恋 梅内美華子(歌人)

狂言 咲嘩 松田高義(和泉流)

能 夕顔 宇高通成(金剛流)
山端之出・合掌留

【定例公演】10月16日(金)午後6時30分開演
演出の様々な形

狂言 鎌腹 山本則重(大藏流)

能 松風 粟谷明生(喜多流)
身留

予約開始 = 9月9日(水)午前10時～

窓口販売開始 = 9月10日(木)チケット売場 午前10時～午後6時 ※窓口販売期に別枠でのお取り置きはございません。

【電話】国立劇場チケットセンター 〈午前10時～午後6時〉 0570-07-9900 / 03-3230-3000 [一部IP電話等]

【インターネット】<http://ticket.ntj.jac.go.jp/> (パソコン)

※一般券のみ <http://ticket.ntj.jac.go.jp/m> (スマートフォン) ※詳細は左記ホームページをご覧ください。

●一般のみ取扱い=チケットぴあ 0570-02-9999 [PC・携帯] <http://pia.jp/> / e+ (イープラス) [パソコン] <http://eplus.jp/> [ケータイ] <http://eplus.jp/ntj>

入場料金

定例・普及公演 一般：正面¥4,900・脇正面¥3,200・中正面¥2,700 / 学生：脇正面¥2,200・中正面¥1,900

企画公演 一般：正面¥6,300・脇正面¥4,800・中正面¥3,200 / 学生：脇正面¥3,400・中正面¥2,200

※全公演字幕付です(日本語・英語)。※障害者の方は2割引です。詳細はチケットセンターまでお問い合わせください。※出演者などの変更の場合はご了承ください。

国立能楽堂

JR(総武線)千駄ヶ谷駅下車・徒歩5分 都営地下鉄(大江戸線)国立競技場駅下車 A4出口・徒歩5分
東京メトロ(副都心線)北参道駅下車 出口1または2・徒歩7分

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1 TEL.03-3423-1331(代) <http://www.ntj.jac.go.jp/nou.html>

定例公演 字幕

10月7日(水)午後1時開演

素袍落

狂言「大藏流」 シテ/太郎冠者 大藏 吉次郎 アド/主 大藏 教義 アド/伯父 善竹 忠重

清経

能「観世流」 シテ/平清経 岡 久広 ツレ/清経の妻 北 浪 高 貴裕 ワキ/粟津三郎 高 井松男 藤 田朝太郎 森 澤 勇司 小鼓 森 澤 良勝 大鼓 佃 宗和 後見 武 田 音晴

普及公演 字幕

10月10日(土)午後1時開演

闇に消えた儂い恋

狂言「和泉流」 梅内 美華子 (歌人)

咲嘩

シテ/太郎冠者 松田 高義 アド/主 野村 又三郎 アド/咲嘩 佐藤 友彦

夕顔

能「金剛流」 山端のほの 出 山 謙吉 合掌留 宇 高 通成 前シテ/女 大日方 後シテ/旅僧 殿 田 謙吉

定例公演 字幕

10月16日(金)午後6時30分開演

鎌腹

狂言「大藏流」 シテ/太郎 山本 則重 アド/妻 山本 則秀 アド/仲裁人 山本 則俊

松風

能「喜多流」 シテ/松風 粟谷 明生 ツレ/村雨 大 島 輝久 ワキ/旅僧 森 常好 アイ/須磨の浦人 山本 泰太郎 小鼓 曾 和 正博 大鼓 白 坂 保行 後見 中 村 邦生

企画公演 字幕

10月31日(土)午後1時開演

野守

狂言「大藏流」 藤波 重孝 舞囃子「宝生流」 大鼓 観 世 元伯

井筒

シテ 大坪 喜美雄 竹市 建学 大鼓 荒 木 信行 小鼓 白 坂 健太郎 小倉 俊樹 野月 小倉 伸二郎

松山鏡

能「観世流」 シテ/俱生神 武 志房 ツレ/母の亡霊 大 槻 文藏 子方/姫 武 田 章志 子方/某 福 王 茂十郎 竹 市 茂十郎 荒 木 建学 小鼓 竹 市 茂十郎 大鼓 白 坂 信行 後見 浅 見 元伯

武田

武田 祥照 坂井 音晴 高梨 万里 藤波 重孝 佐川 勝貴 岡 久広 武田 宗典 武田 文志

後援

古典の日推進委員会

素袍落 太郎冠者は、主人からかねて遠慮するように言われていた饞別の素袍を、伯父から受け取ってしまい、隠そうとしますが、平清経の語る無常観 清経 夫・平清経の入水を知り、悲しみに沈む妻の枕辺に、死んだ清経の霊が現れます。すれ違ふ夫と妻の想い、そして清経の到達した無常観が説かれる、世阿弥作の名曲です。

咲嘩 太郎冠者は主人に命じられ都の伯父を迎えに行くものの、伯父の顔を知らず、咲嘩というすっぱ(詐欺師)を連れ帰ってしまい、ほのほの見える花の夕顔 夕顔 僧が、京の五条辺りで出会った女性 は、そのむかし光源氏に愛された夕顔の霊でした。「源氏物語」に取材した作品で、はかなくも清らかな物語が繰り広げられます。

「演出の様々な形」能・狂言は長い歴史を経る中で、同一の曲でも様々な演出上の工夫が施され、流派や、同じ流派の中でも家によって、違った上演の様式を保っています。今回は、異なる構成で展開する狂言「鎌腹」と、秋の名曲・能「松風」を違った小書(特殊演出)で三か月にわたって上演します。秋の夜長、演出の様々な楽しみが広がります。

鎌腹 妻と大喧嘩した太郎冠者。妻に打ち殺されるよりはと自ら鎌で腹を切って死のうとします。今回は、腹切りを聞き及んだ妻が止めに来て、最後に夫婦が仲直りする演出です。行平に愛された二人の姉妹 松風 在原行平と恋に落ちた海女の姉妹、松風と村雨の霊が現れ、月照らす秋寂びた須磨の浦で、恋慕の舞を舞います。情感あふれる名曲を、上演機会の稀な喜多流の小書「身置」による演出でご覧いただきます。

古典の日記念(鏡に映るものは)平成20年11月に宣言された「古典の日」を記念し、「鏡」に関する曲を集めます。庶民が入手することの稀だった鏡、あるいは閻魔王宮の浄瑠璃の鏡、水鏡など、能・狂言には鏡を扱った演目が多くあります。「鏡」の霊力を不思議さに対する畏れは、普遍的な心性のひとつともいえるでしょう。「鏡に映るもの」を様々な思い描きつつお楽しみください。

形見の鏡に映る「母の面影」 松山鏡 越後の国・松の山。亡き母の形見の鏡に映る自分の姿を、母と思ひ追慕していた娘の前に、母の霊が現れます。そこへ閻魔王の遣い・俱生神が現れ、母の霊を地獄へと連れて行くことしますが、母は用いの後、菩薩となつて成仏を遂げます。ワキ方の大曲のひとつで、国立能楽堂では初めての上演です。

能楽研修発表会「第8回青翔会」 国立能楽堂研修生、研究生を中心とした公演。 10月19日(月)午後1時開演 (全席指定(有料)) 狂言「和泉流」 舞囃子「鞍馬天狗」 能「宝生流」 舍利 (入場料金) 正面 1500円 脇正面 1000円 学生 700円 中正面 700円 学生 500円 予約開始 9月9日(水) 窓口販売開始 9月10日(木) *字幕表示はありません。

遠藤 勝實 坂本立津朗 見越 文夫 金剛 龍謹 元吉 正巳 松野 恭憲 工藤 寛 豊嶋 晃嗣

佐藤 陽 内田 成信 佐々木多門 狩野 了一 粟谷 浩之 長島 茂 友枝 真也 金子敬一郎

武田 志房 大 槻 文藏 武 田 章志 福 王 茂十郎 竹 市 茂十郎 荒 木 建学 小鼓 竹 市 茂十郎 大鼓 白 坂 信行 後見 浅 見 元伯